

研究指定校名 : 鳥取市立宮ノ下小学校

1. 学校の概要

学校名	鳥取市立宮ノ下小学校
学級数	17学級（うち特別支援学級：5学級）
児童生徒数	全児童数291人（令和2年1月1日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/miyano-e/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

規範意識を高め、自他のよさを認め合いながら協働できる子の育成
～考え、議論することに力を入れた学級経営・授業づくりの推進～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

平成30年度、本事業によって「対話」を重視した取組の研究を行ってきた。学習・生活、また、授業・特別活動、生徒指導や家庭教育への働きかけ等、「人権としての教育」「人権が尊重される教育」「人権についての教育」の枠組みの中で行い、規範意識や相手を尊重する資質・能力を高めることに努めてきた。その結果、以下のような成果(◎)と課題(▲)が認められた。

◎Q-U調査では、6月と11月の比較から、多くの学級で「要支援群」→「学級生活不満足群」、「学級生活満足群」の数値増、「非承認群」→「学校生活満足群」、「侵害行為認知群」→「学級生活満足群」への移行が認められた。児童の学校生活の基盤である学級が、より居心地のよい場所へと変容した。

◎鳥取市共通アンケートの「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」「授業に進んで取り組んでいる」「授業がよくわかる」において7月、12月ともに平成29年度よりも高い数値を示し、児童が、枠組みの中で規範意識を高めつつ自己を発揮できる環境が整えられつつあると言えた。

◎各学級の学習規律が整い、落ち着いた環境下で児童と児童、指導者と児童が互いにつながり合い、認め合いながら学習に集中し、意欲的に自己表現する姿が増えつつあった。

▲全国学力・学習状況調査や県学力診断テストの結果から学力低位の児童の割合が高く、学力の2極化傾向が見られる。

▲児童の学校生活の様子や学校評価(児童の意識調査)から規範意識や自己肯定感、感情表現、自己調整力等に問題を抱え、教育的な支援を要する児童が多いことが判明した。特に、学力が十分に定着していない児童にその傾向が強く見られたため、指導法の転換・工夫・改善を図り、落ち着いて学習や生活に取り組める環境を構築する必要性がある。

▲違いを認めて支持的にかかわることや感情のコントロールが困難で、相手に暴言・嫌がらせ・からかい・仲間外し等が続けてしまういじめや、友達間で問題が生じたときに突発的に暴言・暴力に頼ってしまう問題行動が依然として多く起こっている。

▲学習・生活面で様々なパターンの「対話」を体験してきたことにより、受容し認める態度は高まってきたが、異論・反論を唱える、内容について吟味するなどの議論する意欲・態度については不十分であり、深い思考力が十分に育っていない。

<研究の方向性>

平成30年度の研究の方向性を継続しながら、今年度は学級活動(1)の授業実践に取り組む。

- ・菊池省三氏の示範授業と授業研究による「対話と価値語による自尊感情の向上」の上に立ちさらに、質問や反論、異論の要素を取り入れた「考え、議論することに力を入れた学級経営・授業づくりの推進」。(人権が尊重される教育)
- ・児童一人ひとりのアセスメントに基づく本人や学級の特性の傾向に配慮した授業づくり、ICT活用で視聴覚支援を行い、「わかった・できた」が実感できる課題解決。(人権としての教育)
- ・中学校区で「ルールやマナーを大切にし、つながり合う子ども」の育成を重点に掲げた児童生徒の仲間づくりの推進と自治力の育成。(人権が尊重される教育)
- ・教育課程に準じた系統的な人権教育の推進。(人権についての教育)

<テーマの設定>

本校では学校教育目標「子どもたちの未来をきり拓く力を育成する学校づくり」のもと、めざす子ども像として以下の3つを掲げている。

- ・徳「規範意識を高め、自他のよさを認め合いながら協働できる子」
- ・知「主体的・対話的に学び合い、自分の考えを深めていける子」
- ・体「めあてをもち、自ら健康・体力づくりに取り組める子」

学校教育の基盤は学級経営（仲間づくり）である。主体的・対話的な学び合いも仲間づくりができていなければ成立しがたい。

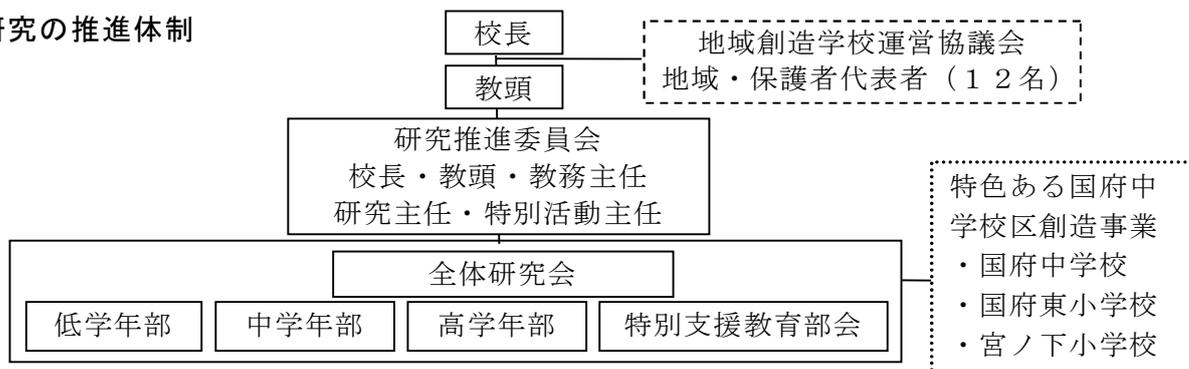
学級経営をしていく上で、特に、教師と児童、児童と児童がつながることは大変重要である。教師と児童、児童と児童がつながっているという安心感を生み出すことで、自己肯定感を高め、他者を尊重する態度や規範意識を高揚させるものと考えた。

そこで、本研究では「規範意識を高め、自他のよさを認め合いながら協働できる子の育成」をテーマに設定し、特に、仲間づくりに焦点をあてながら落ち着いた学習集団を築き、学力、規範意識、自己肯定感が高められるように引き続き取り組んだ。

(3) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性		⑨刑を終えて出所した人	
②子供	○	⑩犯罪被害者等	
③高齢者	○	⑪インターネットによる人権侵害	○
④障害者	○	⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑤同和問題		⑬いじめ	○
⑥アイヌの人々		⑭性的指向、性自認	
⑦外国人	○	⑮その他（ ）	
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等			

3. 調査研究の推進体制



<関係協力機関> ○鳥取県教育委員会 ○鳥取市教育委員会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容等 (現状の分析と課題)

※数値は肯定的評価の割合を示す。()内は鳥取市の数値
※○=前年度より高い、▼=前年度より低い、____=市より低い

平成30年度分	5年		6年	
	7月	12月	7月	12月
1 学校が楽しい	○84.4(89.0)	○76.2(88.8)	○89.8(91.2)	○94.0(91.1)
2 みんなで何かをするのは楽しい	○92.2(93.7)	○93.7(93.5)	○89.8(93.5)	○96.0(93.4)
3 授業にすすんで取り組んでいる	○95.3(89.5)	○88.9(89.4)	○91.8(89.5)	○94.0(91.0)
4 授業がよくわかる	▼92.2(85.5)	▼82.5(85.4)	○95.9(89.4)	○92.0(89.2)

○鳥取市6項目アンケート（上記表は6項目から4項目を抜粋）を含め、児童の学校評価の肯定的な回答は高い（上記表参照）。しかし、項目によっては、保護者・教職員アンケート結果とは評価の割合に差があり、受け止め方が異なるものもある。

○いじめ事案や学校不適応児童が複数あり、現在も指導支援を継続している。また、障がいや異文化に対する理解不足による不適切な発言で友達同士のトラブルもあり指導を行ってきた。

○呼び捨てや乱暴な言葉づかいをする児童が多く、相手を尊重する言葉づかいや態度の育成が必要である。これらの背景には、自己肯定感や自己有用感の低さと友達間・教師間の結び付きの脆弱さがあると考えている。

(調査研究の内容)

- 菊池省三氏招聘の研修を行い、価値語等による児童の自己肯定感を高める取組を行う。
- 特別活動を活性化し、意図的・計画的に対話によるつながりの醸成などを図る。

○人権教育に関する年間計画等の改訂及びいじめ防止基本方針に沿った取組を行う。

(実施方法・検証・評価)

1. 児童の自己肯定感を高める取組

①菊池省三氏を招聘した研修会の実施－7月17日(水)

- ・研修会を兼ねた示範授業の公開、P T A研修会(講演会)、職員研修の開催

○示範授業(国語科)

2年1組・2組「国語：工藤直子のことばであそぶ
～詩「ねがいごと」～」

4年1組・2組「国語：工藤直子のことばであそぶ
～詩「あいさつ」～」

5年1組「国語：ディベート『夏休みの宿題は必要か』」

○P T A研修会(講演会)－演題「対話でつながる家庭へ」

○職員研修…講義「『主体的・対話的で深い学び』への授業改善」

②価値語の掲示

- ・教室掲示板、黒板(8分の1)を活用し、学習規律の指導、言動の価値付けと賞賛を行った。

③各学級での「きらりシャワー」

- ・各学級の帰りの会の時間に全員または数人が1人に対して褒め言葉を伝え、互いを尊重し認め合う心や態度の育成、児童同士のつながりづくりを図った。

④きらりあおぎり全校表彰

- ・毎月、各担任が数人を選び、全校朝会で表彰する。全校で互いを認め合った。

⑤特別支援学級に対する全校児童への啓発活動

○ようこそ！つばさ・コスモス・あおぞら学級へ(5月)…

特別支援学級5クラスの児童計20名について、プレゼンを用いながら紹介する会。つばさ学級の教室に学年ごとに招待し、計6回開催した。一人ひとりの得意なことや苦手なこと、がんばっていること、交流学級での様子や自立活動の内容などを伝えることを通して、人によって学ぶ方法が異なることを示し、特別支援学級への理解を推進した。

○つばさ・コスモスまつりの開催(12月)…特別支援学級児童の4月からの学びや表現力、成長の様子を発表することを通して、支援学級児童一人ひとりの自己肯定感や自己有用感を高めたり自信につなげたりすることを目的にした会。低・中・5年・6年別に4回に渡って開催し、パネルシアター、手品、ブラックシアターを披露した。全校中に互いを思い合う温かい空気が流れる時間となった。

⑥一人ひとりの学力の保障

- ・学級の中に教育的な支援を必要としている児童がいることを前提とし、落ち着いた学習集団の中で、基礎的・基本的な学習内容の習熟に取り組み、学力の定着を図った。

2. 特別活動を活性化し、意図的・計画的に対話によるつながりの醸成

①特別活動の活性化(話し合い活動の重視と自治的活動)

○代表委員会…毎月1回。運営委員会の提案→各学級での話し合い→代表委員会→全校朝会→全校・各学級での実践の中に児童相互の対話場面を保障した。

○委員会の活性化…各委員会がイベントを企画し実施した。

- ・運営委員会の取組…毎週水曜日の朝、各学級が輪番で「さわやかあいさつ当番」として児童玄関であいさつ運動に取り組んだ。「あいさつがんばり週間(10/4～10/11-前期最後の1週間を設定)」には、運営委員の児童がよいあいさつ(相手を見て・笑顔で・はっきりと聞こえる声で)をした人に「グッドあいさつカード」を手渡し、たまった枚数を縦割り班の色別ポイントに加算するといった創意工夫のある取組を実施した。

- ・体育委員会の取組…「宮ノ下陸上(リレー)」というイベントを低・中・高学年別の3回に渡って開催した。企画・立案をはじめ当日のカラーコーン、ライン引きなどの準備、計時、会の進行から賞状渡しまで全てを体育委員の児童が率先し



示範授業



価値語掲示(8分の1黒板)



きらりあおぎり全校表彰



宮ノ下陸上(表彰)

て行った。

○縦割り班活動（わくわく班活動）

- ・班旗作り、わくわく班遊び、さつまいも苗植えや収穫、運動会の応援合戦、百人一首集会、なわとび集会の実施。

○学級の係活動を中心に、「学級遊びの日」の実施。

②日常生活で対話を重視…生徒指導と教育相談（カウンセリング）の充実

- ・生徒指導的なトラブル対応は「迅速な対応」・「対話による問題解決」・「気持ちや言い分を言葉に変換」を重視して、問題解決や指導にあたった。学級・学年全体での対応というケースもあるが、教師サイドの主張や指導を強めず、児童相互に問題点や解決方法等を投げかけ、教師と児童、児童相互の対話の中で納得・理解を得ながら解決を図った。

3. 人権教育に関する年間計画等の改訂

①校区内にある盲学校や聾学校などとの交流

○3年生…テーマ「地域・伝統・福祉」

- ・「盲学校との交流」…2回開催<6/13(木)、11/29(金)>

○4年生…テーマ「地域・福祉」

- ・「手話マスターになろう」…毎週月曜日に手話学習で交流している地域在住の聴覚障がい者の方から手話を学び、11月6日(水)に県立鳥取聾学校との交流会を行った。



盲学校との交流

②確かな人権意識の育成

○スマイル参観日<6/25(火)>

- …公開学習(5校時:道徳、学級活動)、講演会、懇談会

○人権週間(12月4日~10日)の取組

- …鳥取市人権標語・ポスターの募集へ応募優秀賞(全校朝会で表彰・標語掲示)
- ・5年女子「楽しいな そんなクラスが一番だ」



スマイル参観日(授業風景)

4. いじめ防止基本方針に沿った取組

①いじめの早期発見のためのアンケートの実施

- 生活アンケート…5・9・12月、心のアンケート…毎月実施。

②教育相談(カウンセリング)の実施

○児童理解週間の実施…6月17日(月)~6月21日(金)

- ・日々の児童観察も含め、気になる児童については、全職員でその様子や事後の対応について共通理解する場を週1回(毎週金曜日)は設け、情報を共有し直ちに指導に生かすよう努めた。

○SC(スクール・カウンセラー)によるカウンセリングの実施

- ・教育相談コーディネーターや特別支援教育主任を中心に、学校課題対策委員会をもとに全教職員で対象児童を抽出し、SCとの情報交換を通して計画的にカウンセリングを行った。対話を通して、周囲や自分への気づきが生まれ、問題解決につなげるようにしたり、関係機関との連携を図ったりした。

(検証・評価・普及)

◎検証について

1. 鳥取市共通項目アンケートを含む学校評価アンケート(年2回 7月・12月)

令和元年度分	5年		6年	
	7月	12月	7月	12月
1 学校が楽しい	○94.5(87.7)	○94.5(87.8)→	▼80.6(87.4)	▼82.6(88.5)↑
2 みんなで何かをするのは楽しい	○94.5(94.0)	▼90.9(93.2)↓	○95.2(93.7)	▼95.2(93.3)→
3 授業にすすんで取り組んでいる	▼94.6(90.0)	▼85.5(89.8)↓	○96.8(90.4)	▼92.0(89.8)↓
4 授業がよくわかる	○92.7(88.0)	▼81.8(88.2)↓	▼90.3(88.4)	▼88.8(88.2)↓

※数値は肯定的評価の割合を示す。()内は鳥取市の数値

※太字は鳥取市と比較して割合が高い数値、↑↓→は、7月との比較

※○=前年度より高い、▼=前年度より低い、____=市より低い

2. Q-U調査の結果（6月と11月の比較－学校全体）

	6月	11月
学級生活満足群	74.0(64.0)◎	75.4(80.0)↑◎
非承認群	17.6(27.0)◎	15.2(13.0)↓◎
侵害行為認知群	4.1(3.0)▼	2.4(1.0)↓◎
学級生活不満足群	3.1(4.0)◎	6.6(5.0)↑▼
要支援群	1.0(2.0)◎	0.3(1.0)↓◎

※（ ）内は昨年度の数値、単位は全て％
 ※太字は昨年度と比較して割合が高い数値
 ↑↓は、6月との比較
 ※◎…良好な傾向
 ▼…良好でない傾向

3. いじめ問題及び問題行動の認知について

・いじめ事案を含む問題行動（年間約11件－昨年＜約30件＞の3分の1に減少）

4. 「学級会アンケート」の実施と結果（12月－学校全体）

	肯定的評価
1. 学級会での話し合いは、好きですか。	81%
2. 学級会での話し合いは、役立つと思いますか。	93%
3. 自分の意見を理由をつけて言えましたか。	87%
4. 友達やクラスのことを考えて、意見を言うことができましたか。	81%
5. あなたの学級では、みんなで納得して決められていると思いますか。	90%

◎評価について

◇鳥取市共通項目アンケートからは、前年に比べて高い数値を示しているが、鳥取市の平均との比較で落ち込んでいる、あるいは、12月との比較において下降している項目がある。アセスメントを確実にを行い、更に向上するように取組を工夫する必要がある。

◇Q-U調査からは、「学級生活満足群」や「非承認群」について良好な結果を示している。枠に入らない個々の児童の割合が依然あるものの、全体的に6月より11月の方が良好な結果となり、「要支援群」に属する児童も、3人（6月）から1人（11月）までになった。各学級における仲間づくりの成果が出ていると言える。しかし、ある特定の学級において「学級生活不満足群」に属する児童が増加したため、全体でも9人（6月）から19人（11月）へと増加してしまった。今後も学級間の差が顕著に表れるということのないよう、学校全体で教育の質や足並みをそろえ、粘り強く指導・支援していく必要がある。

◇いじめ事案が複数あり、現在も指導支援を継続し見守っている。また、障がいや異文化に対する理解不足による不適切な発言による友達同士のトラブルもあり指導を継続して行ってきた。呼び捨てや暴言・嫌がらせ・からかい等をする児童が多く、相手を尊重する言葉づかいや態度の育成が必要である。これらの背景には、自分に自信がない、自己肯定感や自己有用感が低い、友達間の結び付きが弱い等があると考えている。

◇今年度校内研究として特別活動に取り組んだ。学級活動（1）に係るアンケートを全校で実施したところ、学級での話し合いに対して肯定的に捉えている児童が多かった。学級会の話し合いにより、合意形成ができていると感じたり役立つと感じたりしている児童の割合が90%以上と高かった。肯定的に捉えていない児童が20%弱存在するものの、5項目全てで肯定的評価が8割以上であることから、良好な傾向にあると捉えている。理由をつけて自分の意見を言う、友達やクラスのことを考えて意見を言うといった自己表現すること自体に苦手意識を持っていることが考えられるため、引き続き教育活動全体を通じて、あらゆる場面で表現力を育成したい。また、学級での様々な場面で合意形成を図り、仲間意識を育てたりよりよい人間関係づくりに役立てたりしたい。

◎普及・継続について

- ・校内研修会を市内小学校・中学校区小中学校に公開（7/17 菊池省三先生示範授業他）
- ・中学校区全教職員研修会で公開授業及び研究協議を開催して普及（11/27）
- ・次年度は、学級活動（2）（3）を加味した特別活動の研究に取り組み、実践を継続する。

(2) 実施結果

時期	内容	備考
4月2日 9日	第1回研究推進委員会開催（研究推進計画について協議・検討） 第2回研究推進委員会開催 （授業研究会、指導案の形式等について協議・検討）	
5月8日 11日	第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 第1回地域創造学校運営協議会で説明	参加者1人 参加者11人
6月5日 19日	第1回Q-U調査の結果と分析、対策について 全体授業研究会の実施 2年2組－学級活動（1） 議題「1年2組のみんなともっとなかよくなるよう」 ・指導助言 鳥取県教育委員会人権教育課 松井 貴宏 指導主事	

	鳥取県教育委員会東部教育局 角田 亘 指導主事 講義「主体的・対話的に学び合い、よりよく生きようとする児童の育成」	
7月11日 17日	高学年部会の実施 5年1組－道徳 教材名「世界に羽ばたく『航平ノート』」 教育実践研究家「菊池省三」氏の示範授業及びP T A研修会（講演会）、 職員研修 ＜※アドバイザー派遣事業を兼ねる＞ ・示範授業（2年、4年、5年1組） ・P T A研修会（講演会）「演題『対話でつながる家庭へ』」 ・職員研修（講義）「『主体的・対話的で深い学び』への授業改善」 鳥取県教育委員会人権教育課 松井 貴宏 指導主事 鳥取県教育委員会東部教育局 平野 靖博 社会教育主事 角田 亘 指導主事 鳥取市教育委員会学校教育課 福田 美奈 主幹	参加者70人 対象：保護者、 地域関係者、 学校関係者 ※P T A研修 会を兼ねる。
22日 26日 31日	職員研修（特別活動一年間指導計画・学級会グッズの作成） 中学校区全教職員研修会（国府中学校） ・講演 鳥取法務少年支援センター 下村 健明 氏 「子どもたちによりそって ～サポートの現場から～」 第3回研究推進委員会開催	
9月26日	低学年部会の実施 2年1組－学級活動（1） 議題「ミニ運動会をしよう」	
10月1日 9日 25日 30日	学力向上対策ゼミナール（小学校算数）に係る授業公開の実施 ○1年1組－算数科 単元名「たしざん（2）」＜※全体授業研究会を兼ねる＞ ・協議及び指導助言一筑波大学附属小学校 盛山 隆雄 教諭 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善～研究授業をとおして～」 ・6年1組示範授業及び講義一筑波大学附属小学校 盛山 隆雄 教諭 「数学的な見方・考え方を働かせる授業づくり～示範授業をとおして～」 第4回研究推進委員会開催 市小教研体育部会授業研究会 6年1組－体育科 単元名 陸上運動「ハードル走」 ○低学年部会の実施 1年2組－学級活動（1） 議題「1ねん2くみのはたをつくろう」 ○高学年部会の実施 5年1組－学級活動（1） 議題「地域の方々に感謝の気持ちを伝えよう」	参加者40人 対象：学校関 係者 ※学力向上対 策ゼミ生を含 む。 参加者18人 対象：教員
11月20日 27日	○特別支援学級部会の実施 あおぞら学級－自立活動 題材名「どうやって伝えたらいいのかな」 ○中学年部会の実施 4年1組－学級活動（1） 議題「3年生ともっと仲良くなろう」 研究授業の公開 「令和元年度 人権教育研究指定校事業に係る授業研究会 及び 第3回国府中学校区全教職員研修会」 ○授業公開4年2組－学級活動（1）議題「二分の一成人式の計画を立てよう」 ○授業公開5年2組－学級活動（1）議題「みやこ保育園児と楽しくふれ合おう」 ○分科会別授業研究会 ・指導助言 鳥取県教育委員会人権教育課 松井貴宏 指導主事 鳥取県教育委員会東部教育局 角田 亘 指導主事	参加者55人 対象：教員 ※中学校区研 修会を兼ね る。
12月3日 4日 11日 16日 18日	市小教研図書館教育部会授業研究会 2年1組－国語科 単元名「どうぶつのひみつをみんなでさぐる～ビーバーの大工事～」 第5回研究推進委員会開催 ○特別支援学級部会の実施 つばさ学級1・2組－学級活動（1） 議題「たんぼぼさんありがとうの会をひらこう」 ○中学年部会の実施 3年2組－学級活動（1） 議題「ノート200冊祭りの計画を立てよう」 第2回Q－U調査の結果と分析、対策について ○特別支援学級部会の実施 コスモス学級2組－学級活動（1） 議題「みんながハッピーで終われるすごろくを作ろう」 ○中学年部会の実施 3年1組－算数科 単元名「べつべつにいっしょに」 ○高学年部会の実施 6年2組－学級活動（1） 議題「6年2組の思い出作りをしよう」	参加者25人 対象：教員
1月22日 29日	特別支援学級部会の実施 コスモス学級1組－算数科 4年－単元名「面積」、6年－単元名「直方体と立方体」 第4回地域創造学校運営協議会で研究報告	参加者14人
2月4日	第6回研究推進委員会開催	
2月10日	人権教育研究推進事業報告会 第2回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者1人

(3) 人権教育に係る年間指導計画
別紙参照のこと